

「月刊」

# キャッチ ピース

# 20

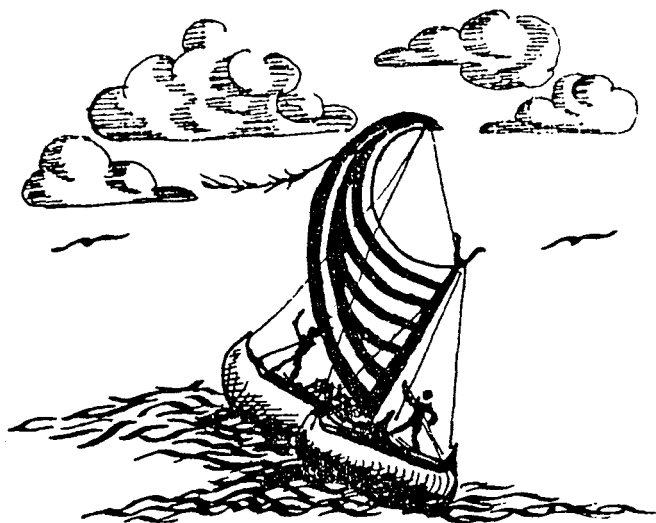
1994. 4

定価●100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！  
米軍基地を撤去しよう！  
反核運動を継続し、核廃絶を！  
憲法9条を世界に！  
市民による平和政策を提起しよう！  
草の根の国際共同作業をすすめよう！

声 明

## 朝鮮半島で戦争を始めるな！



Pacific News Bulletinより

95年に向けて  
市民の動きが  
始まった 広島  
横浜

軍縮署名国会へ  
新防衛予算の  
ここが問題！

★維持会員（月間）

個人 1口 1000円

団体 1口 2000円

<会費は本紙購読料をふくみます>

★参加会員（月間）

個人 1口 500円

団体 1口 1000円

★通信会員  
年間

3000円

脱軍備ネットワーク

## キャッチピース

### あなたも会員・読者に！

連絡事務所 ●〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1

TEL 045(563)5101

FAX 045(563)9907

郵便振替 ●東京6-136148 口座名「キャッチピース」

# 95年に向けて 市民はどうする？

## 横浜で討論会

ヒロシマ・ナガサキから五〇年の一九九五年を核廃絶への飛躍の年にするために、市民として何が出来るかを考えよう、という集まりが四月十六日午後横浜で開かれた。「展示とブレインストーミング」九五年を核のない世界への転換点に」。主催の「NPT連続セミナー」（呼びかけ梅林宏道、服部学ら十五人）は、九五年に期限切れ・再検討が行われるNPT（核不拡散条約）を題材に昨年十二月から四回の連続セミナーを開催してきた。

横浜の新しいシンボル「ランドマークタワー」十三階の「フォーラムよこはま交流ラウンジ」。港を見下ろす会場に約五〇人が集まった。

梅林宏道さんからのあいさつと経過説明のあと、服部学さんが連続セミナーでの討論にもとづいて声明（案）を提案。呼びかけ人の丸山マサ子さん（川崎・武蔵工大原子炉事故を考える会）は、九五年に向かう国内、国外のさまざまな運動を紹介した。つづいて次の五つの提案があった。

- ① 非核法を今こそ作ろう：梅林宏道（PCDS国際コーディネータ）
- ② 非核自治体運動から：平岩敏一（非核県民連絡会）
- ③ 反基地運動から：田巻一彦（キャッチピ



ース）

④ 脱原発運動から：西尾撰（反原発新聞）

⑤ 被爆者の立場から：土田康（被爆者の会）

話し合いは五つのグループに別れて、バズセッション。あちらこちらで人の声が飛び交う様子が、まるでハチの群れがブンブンいっている（バズ）ようなので「こう呼ぶそうだ。私たちに何が出来るのか、素朴な発想や思い付きをどんどん出し合って、それをまとめて行く。企業の企画会議などでよくやられる「ブレイン・ストーミング」の方法を今回は取り入れてみた。各グループの話し合いの結果と提案は即製のポスターに書き出して全体での討論の材料になる。

話し合いの結果は次の声明にまとめられた。これらを具体化するための話し合いは、五月二〇日、同じくフォーラムよこはま（セミナールーム2）で開かれる。九五年に向けた市民のイニシアティブと行動が今動き出そうとしていく。

- ◆ 連絡先：関内法律事務所〇四五（二〇一）六二六九／アリスセンター〇四五（二二一）五八三五／PCDS国際事務所〇四五（五六三）五一〇一



## 声明 95年を 核のない世界への 転換点に

一九九五年という重要な年が近づいている。第二次世界大戦の終結から五〇年、ヒロシマ・ナガサキから五〇年、国連発足から五〇年、そしてアジアのひとびとにとっては日本帝国主義からの解放から五〇年の記念すべき年である。人それぞれに、国それぞれに、一九九五年は一九四五年に起こったすべてのことから五〇年の年として重い意味をもっている。一九九五年は核廃絶と軍縮という目標にとって重要な年である。核廃絶からは程遠い状況であるにせよ、世界の核をめぐる環境は大きく変わりつつある。同時に新しい問題もたくさん生まれ始めてきている。たとえば核弾頭の解体や最処理工場の運転で、大量の余剰プルトニウムが蓄積されつつある。また一九九五

年三月には、新しい核兵器国の増加の防止に一定の役割を果たしたとはいえ、核兵器国の特権的地位を認めている核拡散防止条約（NPT）の期限切れを迎えることになり、期限延長の問題をめぐっていろいろの論議が始まっている。核拡散の問題は新しい段階に入ろうとしている。私たちは、非核・軍縮の市民のイニシアティブで、九五年を「核のない世界への転換点」にしたいと考える。

その第一歩として、九三年二月からNPT連続セミナーが開かれてきた。「国際法からみた核兵器」「NPTの歴史と現状」「核保有国・核実験の現在」「核拡散と核物質管理」等のテーマについて勉強し、さらに今日新しい参加者を加えてブレインストーミング

# この町から 「核兵器禁止」 の歩みを

## 広島・呉で市民集会

高田英夫  
ピースリンク広島・呉・岩国

梅林宏道さんが講演



講演ではまずNPT条約の内容がわかりやすく説明されました。条約では核保有国が増える水平拡散の防止だけでなく、核保有国の保有量の増加という垂直拡散の防止がうたわれている。水平拡散の方は完全とはいえないがある程度の効果はあげてきた。しかし垂直拡散の方はほとんど野放し状態であった。また核保有国の権利のみを保障する「不平等条約」であったにもかかわらず、世界の多くの国が参加している理由として核兵器廃絶に少しはあるがつながるものであるという評価とともに、この条約を批准しないと原子力技術の提供を受けることができないという事情があることが説明されました。しかしながら、その後第三世界の多くの国は核保有国の権利ばかりが保障されつづけることに不満を持ちつづけており、九五年の延長時には多くの国が延長を支持しないのではないかと予測もあり、米国はNPT条約を重要な外交課題と

昨年終り頃だったと思う。NPT条約の延長問題と核兵器禁止法に関する問題提起を聞いてから、今年の重要な課題だと関心をもっていました。四月九、一〇日と呉、広島で梅林宏道さんの講演会を開くことで、私たちピースリンク広島・呉・岩国もようやくこの課題への取りくみを始めることになりました。

して取り組んでいる、とのことでした。

また、NPT条約の延長に対する日本政府の対応についても話されました。宮沢政権のころ、核被害国である立場を考慮して、延長に対する支持を明確にしていなかったのが、逆に日本が核武装をしようとしているのでは、と多くの国から疑惑を持たれ、細川政権になって再延長支持を打ち出さざるを得なくなったとのことでした。

このように、日本がNPT条約の延長に反対した場合、同時に日本が絶対に核武装しないことを改めて宣言するために「核兵器禁止法」を制定する必要があるという話には、今なぜ「核兵器禁止法」なのかを納得させられませんでした。

講演の最後に、NPT条約の延長阻止と「核兵器禁止法」の制定をめざす運動の具体的方法として、非核自治体への働きかけを通じて世論を喚起していくことが提起されました。

講演の内容は大変すばらしいものですが、残念ながら参加者は多いとはいえず、今後しつかりしたとりくみを行わなければならないという思いを強くしました。

を通じて討論を重ねた結果、次のような点で意見が一致した。

一 一九九五年を「核のない世界への転換点」にするためには、市民が大きく声を上げ、現実政治に反映させて行かねばならない。

二 NPTは核兵器国優遇条約である。米国が強く主張し、日本政府が支持を表明しているこの条約の無条件無期限延長は、核兵器国が無期限に存続することを認めることであり、これには反対する。NPTについての論議が高まりつつある機会を有効に生かし、核廃絶への国際的意見を強めることこそが大切である。また国内では、非核法の制定が急務である。

三 核兵器の水平拡散（保有国が増えること）および垂直拡散（核兵器国が核兵器をさらに増強すること）を防止するためには、NPTの延長に期限をつけ、その間に中間目標として、当面次のような問題を解決することが重要であると考える。

- (a) 包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期締結。
- (b) 核兵器国の非核兵器国に対する、核による脅迫あるいは先制攻撃の禁止。

(c) 核兵器国・準核兵器国のすべての軍事用核物質の申告制度の合意と余剰核兵器の解体・貯蔵・処分のための国際査察制度の確立と実施。

(d) 核兵器国・準核兵器国の軍事用核物質生産禁止の国際会議の早期開催。

(e) すべての締結国の軍事・平和目的の国際PU貯蔵・管理制度の合意達成。

(f) 非核地帯設定のための国際協定の関係国間の協議。

(g) 核兵器の全面禁止・削減とそのため

(f) 海外への働きかけ（大使館行動、非核自治体国際会議など）

(g) 新しい運動体づくり

五 これらのことを具体化するための話し合いを五月二〇日にフォーラムよこはまセミナールーム2で開きたい。

一九九四年四月一六日  
NPT連続セミナー  
ブレインストーミング 参加者一同

四 上記のような目標を実現するには、まず、私たち自身が新しい運動を始めるべきである。本日のブレインストーミングでは、次のような項目について多くの提案や討議が行われた。

- (a) 政府への働きかけ（新首相への申入れ、非核法の制定など）
- (b) 自治体への働きかけ（神奈川県宣言一〇周年記念行事など）
- (c) 議員、政党への働きかけ（超党派の核兵器廃絶を考える議員連盟など）
- (d) メディアへの働きかけ（意見広告・投書など）
- (e) 市民への働きかけ（核に関する市民意識調査・パンフレットの作成など）





# 朝鮮半島に関する緊急声明

## 戦争を始めるな！

制裁の「北風」ではなく  
軍縮と対話の「太陽」で  
疑惑と不信の氷をとかそう

94年4月 キャッチピース

朝鮮民主主義人民共和国（以下「北朝鮮」）によるIAEA核査察受入れ問題を焦点に、朝鮮半島には緊張がつづいています。経済的・軍事的制裁をちらつかせながら交渉を継続するというアメリカの「アメとムチ」の政策は、一歩間違えば軍事衝突に発展する危険性をはらんでいます。

今、日本の私たちに求められているのは、戦争は絶対にさけるべきだという声をあげ、戦争を回避するためのあらゆる努力を始めることです。戦争はいかなる大義名分のもとに戦われようとも、犠牲となるのはつねに名もなき民衆であり、憎しみと破壊以外の何物も生まない愚行です。しかも日本はかつての植民地支配、朝鮮戦争への加担という過去をもっています。在日韓国・朝鮮人への差別は日本社会の最も奥深い病根としていまも克服されていません。日本民衆と為政者は世界の誰にも増して朝鮮半島で流血の惨禍を再現させないために努力する歴史的・道義的責任を負っています。

朝鮮半島でひとたび戦火が開かれれば、在日米軍基地はその最前線基地となり、日本が当事者となることは避けられません。「在留邦人救出」を名目にした自衛隊の海外派兵も一挙に現実の問題になるでしょう。

私たちは、この声明を、戦争を何としても回避し、平和的方法によって朝鮮半島の核の危機を打開するための民衆レベルでのアクションの一つとして発表します。

### 冷静になって考えよう

まず私たちに求められているのは事態を冷静に見つめることです。北朝鮮に「核疑惑」が存在することに異論をはさむつもりはありません。同国の閉鎖的な外交政策が「疑惑」を増幅していることも確かです。しかし、現在のところ同国の核兵器開発を裏付ける証拠は何ひとつ示されていません。ところが、それがいつの間にか、新生党小沢一郎氏の「北朝鮮は間違いなく核兵器を保有している」という発言に代表される根拠のない断定にエスカレートしています。日米の防衛当局者が「確認」したといわれる弾道ミサイル「ノドン」にいたっては、その証拠も「確認」の手段も明らかにされていません。

●「AWACSの導入中止と九四年度防衛費削減を求める請願」署名は、もうすぐ約一人になるうとしています。準備もなく大急ぎで始めた署名、果たしてどれだけ集まるか心配だったのですが、ご協力ありがとうございます。

●三月三十一日、田巻、広島のYさん、東京のUさんとそのお友達の四人で、署名を持って第一回の国会議員まわりをしました。国会請願には紹介議員が必要です。できるだけ沢山の議員に働きかけて、趣旨を説明しながら紹介議員になってくれる人を探します。議員の人々に軍縮を求める市民の声があることを知ってもらい、とかく影がうすれがちなのこの問題について、考えてもらいたいという狙い

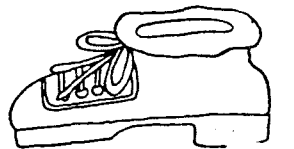
もありません。だから働きかけの対象は超党派。この日は衆議院の約八〇人を訪ねました。

●署名を一〇〇人分づつの束にして、議員の事務所を戸別訪問。議員本人に会えることはめったになくて、ほとんどが秘書に趣旨を説明します。新生党、公明党、日本新党、さきがけの議員は、「与党として自分たちが作った予算に反対するような署名の紹介議員にはなれない」と門前払いがほとんど。せいぜい「お預かりして検討します」というところまで。「国民の間にこういう声がある、ということをお伝える意味での『紹介』ではだめなのですか」と聞いても、「そういうわけにはいかない」。そんな中、日本新党の武山議員がただ一人、紹介議員を引き受けてくれました。

●当時与党だった社会党議員は、「軍縮」の党是と「AWACS導入を認めた」矛盾の間で微妙な反応の人が多い。「趣旨には賛成だが、党の政策審議会（政審）に諮らなければ」という答えが返ってきます。中にはその場で政審に電話する人も。政審からは、「とにかく持ってきなさい」という答えです。というわけで、これもとりあえず預けて帰ってきました。あとになって政審からはOKが出たらしいのですが、後日「紹介議員にはなれない」と署名を送り返してきた人が何人かいたのには失望しました。共産党議員は、署名は預かってくれるのですが「キャッチピースってどんな団体ですか」ということをしきりに気にします。ニュースや資料を送りました（九ページ下段へ）

## 署名を持って国会に行った

田巻一彦  
編集部



環太平洋合同演習「リムパックス」を止めろ！  
4月30日のNHKの報道によると、海上自衛隊は、ハワイ沖で行われる大規模な演習「リムパックス94」に今回も護衛艦8隻を参加させる。この演習にはカナダ、オーストラリアの他に韓国も参加する。そのため、北朝鮮問題がクローズアップされてから初めての、実質的な日米韓三国の共同軍事演習になる。この演習は6月に始まる。

かつて「ソ連の脅威」が叫ばれた時、軍拡論者はまがりなりにも、それなりの根拠を示しました。しかし、今回は全く根拠のない「北朝鮮の脅威」にもとづいて「制裁」や「対抗措置」が叫ばれ、防衛・安保政策が立案されようとしているのです。

### 日米こそ「核」からの脱却を

核兵器はどこにあっても、誰が持ってもならないものです。もし北朝鮮が核武装を計画しているならば、それは放棄されなければなりません。それゆえに、私たちはアメリカの強硬政策とそれに同調する日本政府の姿勢に疑問と怒りを感じます。地球上の人類を何回も皆殺ししてあまりある核兵器を専有しているアメリカとその核の傘の下で、国是である「非核三原則」をタナ上げして「核持込み疑惑」を拡大してきた日本がふりかざす「正義」は決して世界の民衆の支持を得られません。

95年には核査察の根拠であるNPT（核拡散防止条約）の見直し会議が行われます。この条約は、新たな核保有国の出現を厳しく規制する一方で、既存の核保有国の核軍縮義務には極めて甘い、不平等条約です。95年を機に、包括的核実験禁止条約、軍用核物質の生産禁止、拘束力のある核兵器全面禁止条約など非核・非同盟諸国と人々の長年の悲願の実現へと進む国際的合意を作り出すこと、これこそが「核拡散」を防止する道です。

最大の核大国アメリカはまず自らの核を放棄するプログラムを示すべきです。そして日本は非核三原則を法制化し、プルトニウム保有によって新たに深まった自らの核疑惑をまず晴らすべきです。

### 危険な「制裁」への同調

4月22日、連立与党は次のような政策合意に達しました。「朝鮮半島の情勢に対し、憲法の下で緊急の事態に備え、米韓両国と緊密に協議し、アジアの関係各国と必要に応じ連携する」。また別の項目では「憲法は、国連による普遍的安全保障を理念としていることを認識し、日米安保を維持しつつ、国連平和活動に積極的に参加する」。この合意に私たちは失望し、危くを感じています。第一に、朝鮮半島の危機を自明の前提としており、それを根本に遡って解決しようという意欲は全くうかがわれません。第二に情勢への対応の機軸が「日米安保」と「日米韓関係」という冷戦思考を一步もぬけていないことです。そして第三に「国連への協力」の名のもとに憲法の原則を越えた軍事行動への参加の道を開いていることです。事実、国連による「経済制裁」決議を想定した有事シナリオが練られ、自衛隊の海上封鎖への参加が検討されています。朝鮮半島の危機をテコにした軍事活動拡大の動きに私たちは強く反対します。

朝鮮半島の核の危機は、アジア太平洋の軍縮と非核化の中で克服されなければなりません。威嚇や制裁の「北風」ではなく、対話と信頼醸成の「太陽」によって相互不信と対決を乗り越えるべきときです。その出発点には、日本とアメリカがみずから非核と軍縮に具体的一步を踏出さなければならないことをくりかえし強調したいと思います。

私たちは、この声明を連立政権の全閣僚、全政党の指導者そして基地を抱える自治体の長のもとに届けます。

# 市民ががんばらなきゃ 軍縮はできない

反戦ドタバタ会議

話す人 ● 青木雅彦

聞く人 ● 松戸志朗

編集部

● 細川退陣やら羽田新政権発足やらで、来年度予算の審議は連休明けからになりそうだが、自衛隊観閲式で「軍縮」という言葉をはいた史上初の首相、細川サンの最初で最後の防衛予算案は総額四兆六八三五億円。伸び率は、前年比〇・九％、金額で言うと四二九億円の増だ。

● 伸び率としては低いが…

● たしかに正面装備費（二・六％減）など減額されているものもあるが、とても軍縮とはいえない。とくに問題なのは、防衛施設庁予算の伸び率だ。四・二％、金額では二一七億円（総額五四一四億円）の増なんだが、住宅の防音対策などの基地対策費が三％も減額

（六ページから）

が、先日、全員から「紹介議員にはなれない」と署名が送り返されてきました。どういふことなのでしょう。

● というわけで、四月二〇日現在、紹介議員を引き受けてくれることが確認されたのは、次の議員です（いずれも衆議院）。岡崎宏美（無）、辻一彦（社）、岡崎トミ子（社）、田口健二（社）、石橋大吉（社）野坂浩賢（社）、沢藤礼次郎（社）、伊東秀子（社）武山百合子（日新）、小森龍邦（社）、緒方克陽（社）。請願署名が提出されると「議会公報」に囲みのような記事が載ります。

● 予算審議開始までもうわずか。羽田新政権発足のいきさつを見ても、紹介議員探しには苦勞が続くかもしれません。でも有権者として国会議員の物の考え方、感じ方を知る上で議員まわりは結構面白い。いっしょに行ってみませんか。

（四月二二日記・た）

第百二十九回国会衆議院公報 第四十八号 平成六年四月七日

同外二件（福永信彦君紹介）（第一五〇二号）

同（山本孝史君紹介）（第一五〇三号）

AWACS購入中止、防衛費の削減に関する請願（橋大君紹介）（第一五〇四号）

同（緒方克陽君紹介）（第一五〇五号）

同（沢藤礼次郎君紹介）（第一五〇六号）

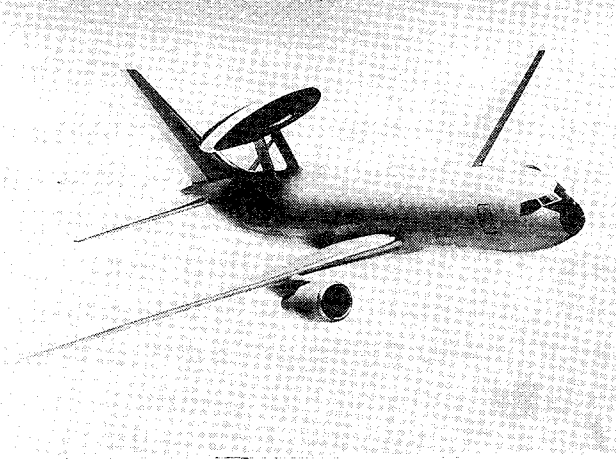
同（武山百合子君紹介）（第一五〇七号）

同（野坂浩賢君紹介）（第一五〇八号）

願（大出俊君紹介）（第一五〇九号）

同（島山健治郎君紹介）（第一五〇一〇号）

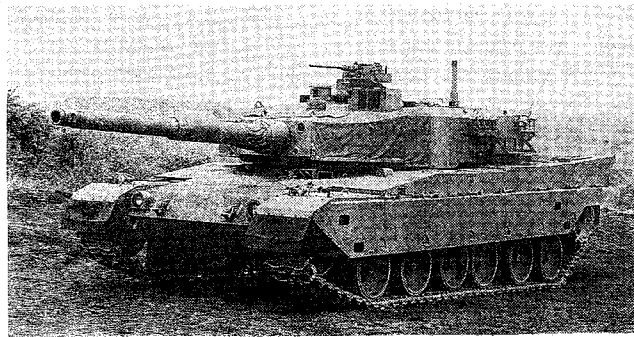
以上二十四件、



ムダな買い物図鑑●1

### AWACS（早期警戒管制機）

「専守防衛」には無用なハイテク兵器。93年10月に2機契約。94年度予算に2機分の予算計上。1機550億円するが、94年度予算での支払いは2機で5.5億円。あとは後年度負担になる。

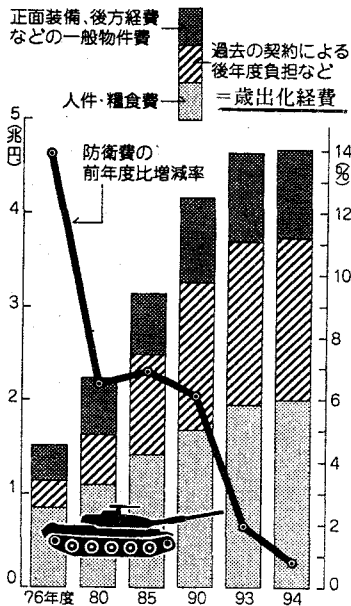


ムダな買い物図鑑●2  
90式戦車

自衛隊は1200台の戦車のうち108台をこの「90式」に変える予定。50トンを超える鉄の固まりのお値段は1台10億円。93年度、94年度とそれぞれ20台を予算計上している。支払いはもちろんほとんど「後年度負担」である。

き話した「ローン」でだ。  
ま●カード破産、って言葉がありますな。  
あ●自衛隊もほとんどそうだね。それから、正面装備は減額になっているけど、これは軍拡の八〇年代を基準にしての数字だからで、一兆七〇〇億円はやっぱり多い。しかも正面装備の新規発注分は昨年より〇・九%増えている。まさしく、高額兵器症候群が続いている。  
ま●あと大きいのが人件費。これには自衛隊の人員を減らすしかない。  
あ●防衛庁としてもその意思はあるようだ。『防衛計画の大綱』の見直しに伴う定員削減

防衛関係費の推移



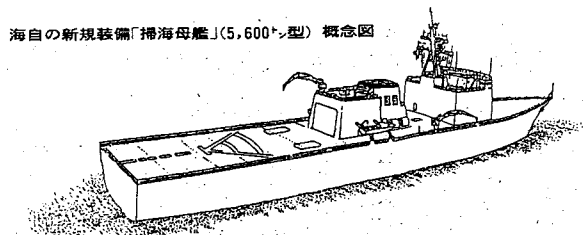
になつてはいるのに在日米軍への『特別協定による負担』、いわゆる『思いやり予算』が何と二四%、二四〇億円も増えている。要するに施設庁の増額を在日米軍がすべて引き受けている。全体の軍事費の伸びの半分以上を『思いやり』が占めているってことだ。  
ま●駐留する外国軍への『カンパ』のために金を出し、軍拡してるワケか。ところで、防衛庁の予算書に出てくる、『歳出化経費』なんてフシギの日本語は何だい？ それから『後年度負担』とか。  
借金してまづ武器を買う  
あ●『歳出化経費』というのは、何のことはないローンの支払いのこと。『後年度負担』てのは積もり積もった借金のこと。でかい買い物をするときは、自衛隊もわれわれ市民同様

も、計画としては存在する。しかし今年度予算には、隊員削減は盛り込まれていない。  
ま●昨年、自衛隊史上初めて部隊の廃止が行われたって話を聞いたけども。  
あ●陸上自衛隊が普通科連隊(宇治市大久保四五連隊員)を廃止した。しかし隊員は他の部隊に配属になるから、定員削減ではないんだ。自衛隊組織の官僚的な体質が削減に抵抗しているんだらうな。陸上自衛隊なんか、削減は確実でも、このままではその幅は非常に小さくなるかもな。  
ま●PKO法やら、自衛隊法改悪やら、『空飛ぶ管制塔』AWACSや空母タイプの輸送艦の導入やら、自衛隊はこのまま海外に展開して行く動きを見せているような気がするんだけども。  
あ●確かにそう見えるが、その導入のスピードや現在の編成から考えて、すぐさま『海外侵略』を目指すワケではないと思う。  
ま●それじゃ、何のための軍拡なのかい？  
あ●ハッキリした目的を持った軍拡と言うよりも、八〇年代の軍拡をまだ継承しているんだな。その最たるものが、さっき説明した高額兵器のローン買いと、もうひとつ『思いやり負担』だ。

様ローンを組むんだ。  
あ●予算ってのはその年度に使うものはその年度に計上する。「単年度予算」っていうんだっけ？ それが原則のはずだよな。  
あ●本来はそうだ。でも、艦船や航空機などは高い。調達に多年を要すると言う理由で、特別に最長五年のローンが認められているらしい。さらにヘンなことに、このローンは頭金がゼロでもいい。  
ま●それはすばらしい。  
あ●ちつともすばらしくない。これはつまり、AWACSみたいな高額兵器を買うことを決めても、その年度の子算には金額として表れないってことだぞ。野党の反対も少なくなると思うメリットがある。しかも、いったん購入が決まれば日本ではキャンセルなんてことしないので、その後の予算は、はてしなく硬直化してしまう。  
ま●かりにその後、軍縮しようという内閣ができて、前の内閣の『借金』をしょい込まれるワケか。  
あ●そう。軍事費の削減は難しくなる。その『借金』こと後年度負担だが、今年度の要求は、懲りない三・三%増(新規分)。これだけで五年くらい先までの軍拡が『予約』されてしまう。  
ま●高額兵器の新規導入は徹底的に避けなければ、

ま●聞いたことがありますな。  
あ●うん。これが不当なカネなんだ。本来なら米軍の駐留経費は、安保条約に基づく「地位協定」で地代など基地を提供するための経費は日本の負担、それ以外のいっさいはアメリカの負担とハッキリ決められている。ところがアメリカさんは、円高を理由に在日米軍維持経費に対して日本が費用の分担をしてくれと言いつつ出した。その結果今では、『特別協定』を結んで、基地従業員の給与や光熱費を

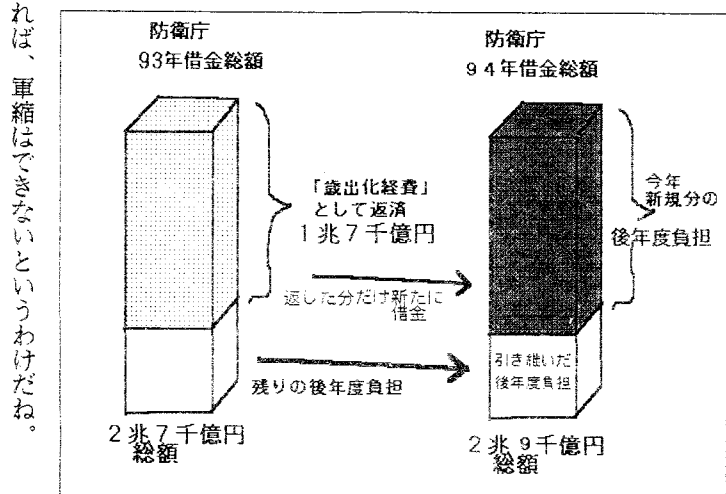
まだ増える「対米貢献」



ムダな買い物図鑑●3  
掃海母艦

ベルシャ湾に海外派兵された掃海母艦「はやせ」は2000トンだったが、これは5600トンと大幅スケールアップ。値段は307億円。支払いは大部分が後年度負担になる。

あ●日本の自衛隊は、その任務や規模に不似合いな高額な兵器を導入するのが大好き。その大部分が米軍からの輸入からライセンス生産だ。今年度予算でも、一機五五〇億円のAWACSの追加購入を認めている。その他にも、世界一高価な(一台一〇億円)戦車『九〇式』を二〇両、一機一〇億円クラスのF15、P3Cなども購入し続けている。それも、さつ



武器も人も多すぎる

れば、軍縮はできないというわけだね。

(62)

94年3月23日～94年4月26日

S級=原子力潜水艦スタージョン級  
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆3月24日 14:00原潜バーミンガム(L級)横須賀に入港。
- ◇3月28日 09:53原潜バーミンガム(L級)横須賀を出港。
- ◇4月7日 09:58原潜バッファロー(L級)横須賀を出港。
- ◆4月12日 13:55原潜バッファロー(L級)横須賀に入港。
- ◇同日 14:28原潜バッファロー(L級)横須賀を出港(沖合停泊)。
- ◆4月14日 12:15原潜オマハ(L級)佐世保に入港。
- ◆4月19日 08:33原潜タニー(S級)佐世保に入港。
- ◇同日 09:23原潜タニー(S級)佐世保を出港。
- ◇4月22日 14:54原潜オマハ(L級)佐世保を出港。
- ◆4月23日 12:00原潜シカゴ(L級)佐世保に入港。
- ◇同日 12:30原潜シカゴ(L級)佐世保を出港。

●1994年1月1日から4月26日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	9回(うち原潜7回)
佐世保	8回(うち原潜8回)
ホワイチ	3回(うち原潜3回)
トビーチ	
沖繩・勝連町	
合計	20回(うち原潜18回)



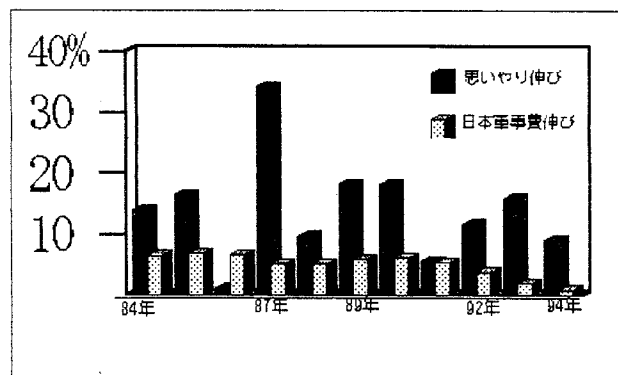
●皆さんのご活躍に敬意を表します。キャッチピースで核兵器や基地や戦争の危機の情報を詳しく知ることができ、感謝しております。このごろ非核三原則がもう崩れてしまっている

るのではないかと危惧していますが、PKOとともにボケが進んでいるのでしょうか。小生七九才の年金暮らし、何のお手伝いもできずぶがなくなっているこの頃です。

(EY/札幌市)

●最近韓国にパトリオットミサイルが配備されたというニュース報道がありました。朝鮮半島情勢が厳しいと思います。具体的にどのようなことか、キャッチピースで取り上げてくださいます。頑張ってください。財政問題は一時的に難しい局面におつかる事もあります。が、時間の問題です。今や反核平和ほど重要な問題はありません。キャッチピースの方々は必ずや難問題を打開しようと思えます。心

思いやり予算と日本の軍事費伸び率比較  
(対前年比)



日本が支払っている。それ以外に施設建設費まで日本が負担している。

●こいつを始めたのが、かの金丸さんですな。

●あ●そう。七八年当時は六二億程度だったのが、九三年度では三三〇〇億円と一五年で三七倍に増えた。アメリカの方は「米本土に軍隊を置くより安上がり」と喜んでる。

●あ●気前の良い国だなあ。

●あ●そうだよなあ。しかし実は、この条約上の根拠もない『国家のウラガネ』を決めた『特別協定』が、来年で失効するんだ。

●あ●それなら、削減や廃止のチャンスではないか。

市民の出番がやって来る

いですか。

●あ●そうなんだが、残念ながらその方向には行かないみたいだ。日本はとにかく、アメリカ政府の怒りを買うことを恐れている。もともと八〇年代を通じて貿易摩擦に対するアメリカの怒りを静めるためにこの『対米支援』を拡大してきたワケだし。今年の『思いやり』の大幅増額も、とにかくアメリカの歓心をかうためだろう。

●あ●それじゃ来年以降、新しい協定ではない以上『対米貢献』を押しつけられるのだろうか。

●あ●その可能性が大きいな。

●ま●いままでは『ソ連が攻めてくるぞ』って理由で兵器を導入してきたワケだった。その『敵』がなくなった今でも、何で兵器を導入し続けるんだろう。

●あ●日米の軍需産業への『思いやり』と官僚的保守主義だろうな。いらなくなった兵器は廃棄するのではなく、何とかその『使いみち』を見つけてやる、これが彼らの発想なんだ。

●ま●あるかどうか分からない北朝鮮の『ノドン・ミサイル』に対するため、AWACSや

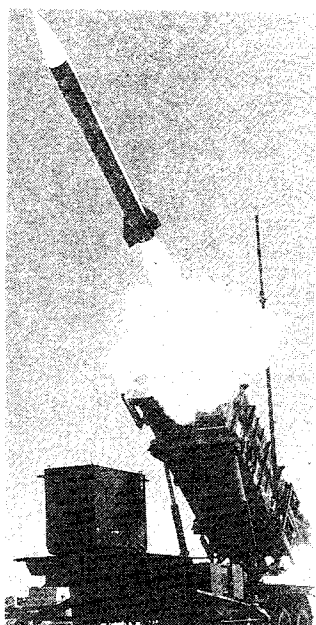
イージス艦、グレイアップしたパトリオットの活用なんか浮上してくる。

●あ●自衛隊の思い切った人員削減も、組織内部の抵抗が強い。出世ポストが減るから。軍縮のためには外部からの政治のリーダーシップが必要だが、これもいまの与党には期待できない。主導権を握るのが軍事大国化志向の『イチ・イチ・ライン』だから。しかも社会党は、こないだまで与党で予算を作るがわにいたわけだし。

●ま●単なるパフォーマンスだけでもいいから軍縮を訴える政党はないだろうか。

●あ●共産党ぐらいしかなさそうだなあ。

●ま●そうか、だから市民の出番なんだよね。



ムクナ買い物図鑑 ●4  
パトリオット  
ミサイルや爆撃機を迎撃するミサイル。ソ連の崩壊でいったい何を「迎撃」するのかわからなくなったがとにかく買う、という。94年度1セット購入の値段は352億2400万円。うち94年度予算はわずか1億6000万で残りは一後年度に払いである。

から拍手を送りたい。読者としてこれからもカンパを考えていきたい。

(成在龍/団休役員/東京都)

●実際に存在している米軍基地に反対するところから出発しているキャッチピースの取組に賛同して購読することにしました。できれば自衛隊駐屯地の「チビッコヤング大会」のような宣撫工作に反対する運動の紹介や、日程なども掲載してください。また科学技術の軍事利用(質的軍拡)や改憲まで議論している「防衛問題懇談会」に抗議する電話を事務局の内閣安全保障室(☎〇三―三五八―一〇一〇一)に集中させることを提案したいのです。

(山田一彦/教員/東京都)

●八十路の誓い平和のために：鳥海様の卒寿をお祝いし、遙かにさらなる長寿を祈念いたします。拙子は喜寿と言われますが、引退し過悪の懺悔と永誓居に入りました。一つには心不全Ⅱ身体障害者第一種、その上自動車事故で大腿、膝、関節、筋、腱に異常が起こり、外に出歩けぬのが理由でもあります。拙子は非核大西洋、太平洋の国際会議を組織するお手伝いをしました者です(ベルリン、ベルゲン、フィジー)。全面完全軍縮のための世界会議を提起していただきたく存じます。一九七八S D I最終文書を是非ご再読ください。

(暮寂日弘/僧侶/茨城県鹿島郡)

# 会計報告

(94.3.26 ~ 94.4.25)

## [収入]

○前月からの繰越		33,602
○今月の収入		450,000
会費収入		400,000
内	維持団体	48,000
内	維持個人	84,000
内	参加団体	30,000
内	参加個人	27,000
内	通信会	211,000
カンパ収入		50,000
預金利子		0
資料収入 *		0

## [支出]

●今月の支出		197,542
事務所代 (2月)		40,000
水道光熱費		6,750
電話・FAX費		24,388
郵送費		60,818
文具・備品		4,055
印刷・コピー代		56,271
行動費 **		0
郵便振替手数料		5,260
雑費		0
●次月への繰越		286,060

\* 平和資料協同組合(準)の資料収入は、別会計とします。

\*\* 行動費は行動プロジェクト毎の独立採算となっているため、それにあてはまらない収支のみが、この欄に計上されます。

●前略。日々の活動、敬意を表します。カールビンソンが入港した様子、京都トマ連の吉田さんから聞きました。チームスピリットは一応中止になったとは言え日米韓の軍事状況は変わらないようです。一異議申し立てをこれからも続けていくことが大切だと思っております。ニュースいつもありがとうございます。(三月二十五日着/YN/東大阪市)

●署名もう一枚手元に帰ってきましたので送ります。AWACS、パトリオット購入は何か理由(アメリカの対日貿易赤字といったような)がありそうな気がします。そこまで知らせていただいた方が署名を頼むにも説得力が出てくるように思えるのですが(三月二三日)。家の陰にはまだ所々雪の山がありま

すものの、札幌の町の中の雪はすっかり消えました。若い人たちが軽いコートで楽しそうに歩いています。ぐずぐずしてきますうちに首相の私的諮問機関「防衛問題懇談会」の首相その人が細川さんではなくなってしまう。これからどうなるのでしょうか。(四月十一日)

(YK/札幌市)



## 月刊キャッチピース

(月刊トマ喰い虫改題)  
No. 20 (通巻99号)  
1994年4月20日発行

発行●脱軍備ネットワーク・キャッチピース

発行所●〒223 横浜市港北区箕輪町  
3-3-1 トマ喰い虫社

☎045.(563)5101

FAX045(563)9907

郵便振替●東京6-136148「キャッチピース」

編集●キャッチピース編集部

定価●100円(通信会員年間3000円)

会費の納入ありがとうございました。ようやく一息つけることができます。今後もよろしくお願いいたします。

● 編集室から

いろいろな事情が重なって、印刷、発送が連休明けまでずれこんでしまいました。夜と休日仕事中心の月刊発行にはさまざまなところに無理があるようです。何とか明るく乗りきりたいものだなあ。

(た)

● 財政から

# あなたも参加しませんか？

バンコック・ピース・セミナー

BANGKOK PEACE SEMINAR

アジア太平洋安保に対する民衆のアジェンダ

PEOPLE'S AGENDA FOR ASIA-PACIFIC SECURITY

(1994年7月22日～24日、バンコック)



ASEANの拡大外相会議開催の直前、7月25日にアジア太平洋の18の国と地域の政府代表が、地域の安全保障を話し合うためにタイのバンコックに集まる。ASEAN地域フォーラム(ARF)と呼ばれるこの会議は政府レベルでアジア太平洋の安全保障を話し合うはじめての会議であるが、冷戦の終結に伴う状況の著しい変化を象徴するものだ。フォーラムの参加者はASEANの6カ国(ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ)と拡大外相会議に出席するASEANの7つの貿易相手国(オーストラリア、カナダ、EC、日本、ニュージーランド、韓国、アメリカ合衆国)、そして招請された5ヶ国(中国、ラオス、パプア・ニューギニア、ロシア、ベトナム)である。ほかにもビルマ(ミャンマー)の参加の見込みで北朝鮮は参加の意向を示している、と言う。

太平洋軍備撤廃運動(PCDS)とタイのグループは現在、このARFに先だってNGOの会議、バンコック・ピース・セミナーを開くことを計画している。これは民衆の視点から、アジア太平洋地域の平和と安全保障を話し合うものである。同時にその視点を政府レベルに反映させる地域的メカニズムを発展させる狙いもある。1980年代、安全保障問題では積極的な市民運動の参加や市民の発言があり、地域の核軍拡競争に対抗する代替的な理論を発展させるのに重要な役割を果たした。NGOの働きがいろいろな場面で政府の進歩的政策や行動を引き出したのである。

今、民衆の意見をアジア太平洋の安全保障の枠組み作りにつなげよう。

## 状況

アジア太平洋地域は、地域の、ひいては世界の、安全保障にかかわる新たな紛争や問題だけでなく冷戦の残像にも悩まされつづけている。域内の安全保障を取り巻く環境には次のような問題点がある。

- 1) 四つの核武装国家(アメリカ合衆国、中国、ロシア、フランス)の存在
- 2) 相当数の米軍の前方配備と地域の自決権を脅かすおそれ
- 3) 核と統一問題に関連した朝鮮半島の緊張
- 4) 日本の軍備拡張、国外への軍事的行動やプルトニウム貯蔵の問題
- 5) 中国の軍事費の増大や地域政策のあいまいさ
- 6) 域内の多くの国家による武器輸入の増大及び軍備の増強
- 7) ブーゲンビル、東チモール、南沙諸島など多くの「ホット・スポット」の存在

付2 このNGO会議「ピース・セミナー—アジア太平洋安保に対する民衆のアジェンダ」においては、私たちはアジア太平洋の平和と安全保障に関する民主的で民衆的な観点を発展させようと思う。とくに、安全保障の新しい概念を発展させる必要がある。それは、軍事に費やされる資源を人間の基本的な必要性のために振り向けるものでなければならない。同時に私たちは、それぞれの国の民衆や民衆運動の置かれている状況の違いを理解し合いたいと思う。このセミナーが地域の、ひいては世界の平和運動の相互協力の確かな基盤を創り出すことを私たちは信じている。

この歴史的なバンコックでの会合に参加しよう。直接の参加だけではなくて、賛同の手紙、提案、論文を歓迎する。

### セミナー会場

◆ チュラロンコン大学 サラニテス(SARANITES)会議場

### プログラム(仮)

◆ 7月22日(金)

9:00 受付

10:00 開会

基調報告 (ASEANの背景、地域の大国、核軍縮と核拡散などを論じ地域全体の概観をうることが目的)

14:00 国別の報告と提案

◆ 7月23日(土)

エクスポージャー

◆ 7月24日(日)

9:00 時事的問題に関する討論 (NPT問題、武器貿易、人権、大国の諸政策、女性の観点、地域安全保障に関して民衆の意見を反映する地域メカニズム、緊急の問題)

15:00 ARFへの決議に関する討論と決定

19:00 閉会

◆ 7月25日(月)

9:00 ASEAN事務局へ決議文提出

### セミナーの目的

◆ アジア太平洋地域の諸国家の平和と安全保障に関する課題を知る。(セミナーの目的に沿えば、「安全保障」にはさまざまな人権の問題が包括される。)

- 現在の、そして計画されている外交的、軍事的枠組について学ぶ。
- それぞれの国家の平和運動の緊急な要求を知り、相互援助の道を探る。
- 平和と安全保障に関する共通の目標を探る。これには核軍縮と核拡散防止に向けた共通の努力が含まれる。(1995年はヒロシマ・ナガサキの50周年であり、NPT延長会議の開催もある。)
- 政府の地域フォーラムへ民衆の声を反映させるメカニズムを探る。
- ARFへ提出する決議文を作り、採択する。

主催

- ◆ 太平洋軍備撤廃運動（PCDS）
- ◆ チュラロンコン大学アジア研究所
- ◆ チュラロンコン大学社会開発研究センター
- ◆ ピース・セミナー・タイ準備委員会

その他

- ◆ 使用言語：英語
- ◆ 参加予定者：
  - ウィタヤ・スチャリタナルクセ（タイ、アジア研究所所長）
  - スリチャイ・ウンゲオ（タイ、社会開発研究センター）
  - トンバイ・トンパウンド（タイ、弁護士）
  - ウォルデン・ベロー（フィリピン、フード・ファスト）
  - アントニノ・ネパムセノ（フィリピン、非核フィリピン連合）
  - ロペティ・セニトリ（トンガ、非核独立太平洋運動事務局長）
  - パティ・ウィリス（カナダ、PCDS資料コーディネーター）
  - キャロル・ジャンコウ（US、サンジェゴ平和資料センター所長）
  - ニッキー・ハーガー（NZ、ピース・ムーブメント・アオテアロア）
  - ニック・マクレラン（オーストラリア、ビクトリア州非核独立太平洋運動委員会）
  - キム・スング（韓国、「平和と統一のための連帯」事務局長）
  - 梅林 宏道（日本、PCDS国際コーディネーター）
  - 伊波 洋一（沖縄、地区労事務局長）
  - 皆川 みずゑ（日本、脱軍備ネットワーク“キャッチ・ピース”）
- ほか、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ビルマ、パプアニューギニア、朝鮮民主主義人民共和国からの参加も予定。

この欄は、加入者あての通信にお使いください。

通 信 欄

この払込通知票は、機械で使用しますので、下部の欄を汚さないよう特に御注意ください。また、本票を折り曲げたりしないでください。（郵政省）

付4 ◆ PCDSの会議：

ピース・セミナーに続いて、7月25日から27日、PCDSはバンコックで運営会議を開く予定である。この会議はPCDSの行動計画や活動について話し合うものだが、PCDSの活動に関心をもつ方の参加も歓迎する。

セミナーについての問い合わせは以下へ

PCDS国際コーディネーター 梅林 宏道  
223 横浜市港北区箕輪町3-3-1  
☎ 045 (563) 5101 FAX 045 (563) 9907

ピース・セミナーにカンパのお願い

ピース・セミナーの開催については、世界的に平和運動に対する関心が薄らいでいる現在、資金集めに苦慮しているところです。海外参加者のうち、日本や韓国などを含め「先進国」からの参加者には自費での参加を呼びかけていますが、第三世界からの参加者を増やすために日本でのカンパを募っています。

- ピース・セミナーへのカンパ 1口 3,000円
- 郵便振込先 東京 9-188928 太平洋民衆フォーラム

この企画の重要な意義をご理解いただき、ぜひカンパをお寄せください。なお、送金には下の振替用紙を切り取ってご利用ください。

通常払込料金 加入者負担												払込通知票												通常払込料金 加入者負担												払込票																								
各票の※印欄は、払込人において記載してください。	口座番号	東京 9-188928											金額												口座番号	東京 9-188928											金額																							
	加入者名	太平洋民衆フォーラム											料												加入者名	太平洋民衆フォーラム											料																							
	払込人住所氏名	(郵便番号)											備												金												払込人住所氏名												金											
	備考												受付局日附印												備考												受付局日附印																							

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

切り取らないで郵便局にお出しください。

この払込通知票は、機械で使用しますので、下部の欄を汚さないよう特に御注意ください。また、本票を折り曲げたりしないでください。(郵政省)